

TCVV 白書

『声優アワード』 Watch 8
連載記事：声優システム論 18

The TCVV Whitepaper 2 0 2 4 N O . 25



声優は Visual に出るな！宣言 Ver1.11

声優は Visual に出るな会議 決議第 00000 号

声優は映画俳優・舞台俳優に比べ声だけで勝負をするという過酷な生業である。
映画・舞台俳優は身振り手振りが付加されるので視覚に訴えることが効く。
が、声優はそうは行かない。だからこそ高度な演技力が必要とされるのではないだろうか。
現在、第四次声優ブームと言われているそうだが、何か違和感を感じずにはいられない。
最近の「声優」と呼ばれる人々は Visual、その他のメディアに頼りすぎ・出過ぎではないだろうか？
今やマーケティングでメディアを十分に活用すれば、そこら辺のお姉ちゃんでさえも CD をあつという間に売ってしまう。この状況を「沈黙のミリオンセラー」*1とは良く言ったものである。
「声優」自体が今やメディア戦略によって商品になってしまったと思う。
この戦略は聴衆を気がつかない間に購買者に変えてしまう巧みなシステムだと考える。
しかし、このシステムは本来の価値。つまり「声のプロフェッショナル」としての声優を正当に評価していないものであると言える。

舞台俳優の中には決して Visual に耐えられる人ばかりではない。
が、そのような人が舞台に立てるのは、人を引き付ける演技力を持っているためであると考える。
一方、声優の質は低下している。これは最近のアニメーションは高度な演技力を必要としないものが多くなっているからといえよう。そうなれば声優の質が低下するのは至極当然のことである。*2
従って、高度な演技を必要とする作品では声優の能力の限界が露呈してしまう。
例えば、劇場版新世紀エヴァンゲリオン最後の最後はアスカのほんの一言で終わる。*3
しかし、この台詞は始めに用意してあったものとは違うものであったようだ。
本来は「あんたばか？」であったようだった。が、声優の力量不足のため、結局「気持ち悪い。」へと変更を余儀なくされた。
完全に声優が役に負けてしまっていたのである。
結果、作品は中途半端に仕上がってしまい損害を被ったのは我々聴衆者である。

声優が新境地を求めるのもいい。しかし、声優も役者であるのだからまず足場を固めてから進出するのが筋と考える。
我々は、健全な日本アニメ・マンガの質を守るため、ここに「声優は Visual に出るな！」を宣言する。

*1 誰もが知っている訳でもないのに 100 万枚以上売ったレコード・CD のこと。一昔前は 100 万枚といたら大部分の人がその曲を知っていた。

*2 劇場版 Evangelion のパンフレット（春、夏ともに）にて清川元夢氏はプロ意識なき声優への批判とも解釈できる発言をしている。これは非常に勇気ある発言と言える。（普通はこういう事は映画のパンフでは言わないであろう。）

*3 実は Evangelion はヲタク（庵野氏）によるヲタク批判であったことはあまり報じられていない。ヲタクの皆様はそのメッセージを受け取れなかったとのこと。（レイとシンジが列車に乗っていて会話をするあのシーンが批判部分とされている）

目次

巻頭言	5
1 第 23 回 TCVV アニメタレント短期観測調査	6
1.1 TCVV 短観概要	6
1.2 調査期間	6
1.3 集計	7
1.4 傾向分析	8
1.5 際立つ状況	8
1.6 気になる状況	9
2 『声優アワード』 Watch 10	10
2.1 まえがき	10
2.2 受賞者一覧	10
2.3 受賞者	10
2.4 所感	10
3 ナナニジ Watch 3	11
4 声優システム論 18-ザクとは違うのだよ、ザクとは-	12
5 「C103 時点で注目している女性声優」	14
5.1 永瀬アンナ [1]	14
5.2 若山詩音 [2]	14
5.3 会沢紗弥 [3]	14
5.4 羊宮妃那 [4]	15
5.5 まとめ	15
6 Chairman's free talk -議長放談-	17
編集後記	18

原作に忠実であるということ

今年話題になったことと言えば原作改変問題。この問題を受けてどこまで原作に忠実に再現させるかで熱い議論になった。

原作に完全一致させることは無理である。特に原作が完了していない場合には特に難しいと思う。原作付きのドラマや映画、アニメをいかに仕上げるか。まさに永遠のテーマといえる。

そんな原作改変について議論されていた中、アニメ版響けユーフォニアム 3 期の 12 話が原作から改変され視聴者に大きな衝撃が走った。ただ事前に原作者の許可があったこともあり全体の仕上がりは大きな問題にはならなかった。その理由としては作品の空気感を壊さなかったからだと思う。

過去、アニメにおいてその大事な空気感をぶち壊した騒動があった。今を去ること 18 年前に「おとボク騒動」ということがあった。(騒動をご存知でないなら、ぜひインターネットで検索していただきたい) 本騒動は原作ゲームがアニメ化される際、幹事となる大手レコード会社が売り出したい某声優ユニットの声優達を作品に無理やりねじ込んできた。アニメ化に浮かれたゲーム会社上層部が現場に相談せず許可を出した。これにより原作から声優が総取り替えとなる事態になった。決定後にこれを聞いた原作のシナリオライターは「原作ゲームは声優に合わせてシナリオを書いたのでアニメは大改変になる」と大変落胆した。また変更後のとある声優は演技が著しく下手とも評していた。シナリオライターはブログに悔しさを吐露し怨嗟まみれとなった。作品が壊される瞬間を目の当たりにした原作ファンからも落胆の声が上がった。

がんばって来た原作サイドや演者に対するリスペクトというものがない。当然、本誌でも厳しく糾弾した。

原作に忠実であるということは、これ即ち元の雰囲気や空気感を壊さないようにすることではないかと。実写化、アニメ化に際しては原作の雰囲気や空気感を壊さないように翻案することだと考える。そして、うまく脚本が翻案できたら演者の出番である。原作の空気感を維持できるかは演者の技量に任されるが、せっかく良いシナリオになっても演者が引き出せなければ作品は壊れる。我々が下手な演技を糾弾するのは空気感をブチ壊すからである。「おとボク騒動」では演技も駄目だったのだから。

「おとボク騒動」が思いのほか反響が大きかった所為なのか定かではないが、その後、明らかな声優変更は少なくなったように思える。

このように原作改変による悲劇は過去何度も起きている。今後は勝手な翻案で起こる悲劇はなくなって欲しいと切に願う。

1 第 23 回 TCVV アニメタレント短期観測調査

TCVV 情報管理部 調査課 短観担当

1.1 TCVV 短観概要

経済指標を示す「日銀短観（日本銀行短期経済観測調査）」のようにある期間に区切りアニメタレントの出演数を調査することにより現状の動向を分析する。

データは「しょぼいカレンダー^{*4}」から TCVV の算出基準^{*5}により機械的に抽出したものである。

集計方法は新規出演数を四半期毎に集計し合算した後、4 で除することで四半期当たりの新規出演数の平均値を算出する。この値を「短期的な活性度（単純活性度）」と定義する。

ただし、人間は忘却をする性質があるので『単純活性度』だけでは感覚に合致しないと考える。最近の出演した方がより印象が深い。そこで人間の感覚を取り入れるため過去を割り引いて考えた『感覚活性度』も同時に算出する。

具体的な算出方法は 4Q 前は出演数に 0.25 を、同様に 3Q 前は 0.5、2Q 前は 0.75 を乗ずることで重み付けし人間の感覚により近い活性度を算出する。

活性度が 1.00 以上ということはクォータ毎に平均して新規 1 本出ていることになりコンスタントに新規出演していると言える。言い換えれば『常に新しい状態』である。

順位に関しては感覚活性度を優先とし、感覚活性度が同値の場合は単純活性度で比較した。また調査結果については誌面を圧迫するため女性声優のみの調査とし上位 30 名弱までの掲載とした。

(標本数 女性 300 名)

1.2 調査期間

西暦 2023 年 10 月～2024 年 7 月

本調査は十分な調査をしていますが完全性を保証するものではありません。
また今後の動向については現時点でのデータからの予想です。

^{*4} <http://cal.syoboi.jp/>

^{*5} 無料地上波放送の TVA レギュラ出演のみで単発出演は除く

1.3 集計

2023 年 TCVV アニメタレント短期観測調査

順位	氏名	2023/4Q	2023/3Q	2023/2Q	2023/1Q	感覚活性度	単純活性度
1	上田麗奈	4	5	8	10	3.56	6.75
2	東山奈央	3	8	5	5	3.19	5.25
3	鈴代紗弓	9	2	2	5	3.19	4.50
4	日笠陽子	4	2	7	11	2.94	6.00
5	早見沙織	6	2	5	6	2.88	4.75
6	高橋李依	3	6	7	2	2.88	4.50
7	鬼頭明里	1	8	6	2	2.63	4.25
8	釘宮理恵	3	5	5	4	2.56	4.25
9	悠木碧	3	4	5	4	2.38	4.00
10	内田真礼	2	5	4	5	2.25	4.00
11	和氣あず未	5	2	2	6	2.25	3.75
12	佐倉綾音	3	3	4	6	2.19	4.00
13	M・A・O	3	3	5	4	2.19	3.75
14	小清水亜美	2	6	3	3	2.19	3.50
15	花澤香菜	2	5	3	3	2.00	3.25
16	上坂すみれ	4	3	2	3	2.00	3.00
17	本渡楓	1	6	3	3	1.94	3.25
18	伊藤静	4	4	1	1	1.94	2.50
19	瀬戸麻沙美	1	5	0	10	1.81	4.00
20	堀江由衣	1	6	2	3	1.81	3.00
21	種崎敦美	2	2	3	8	1.75	3.75
22	雨宮天	2	4	3	2	1.75	2.75
23	沢城みゆき	3	3	3	1	1.75	2.50
24	日高里菜	2	1	4	8	1.69	3.75
25	ファイルーズあい	2	4	1	5	1.69	3.00
26	久野美咲	1	5	2	4	1.69	3.00
27	中原麻衣	3	3	2	2	1.69	2.50
27	潘めぐみ	3	2	4	1	1.69	2.50
27	安済知佳	3	4	0	3	1.69	2.50
27	前田佳織里	4	1	3	2	1.69	2.50
31	長谷川育美	2	2	3	6	1.63	3.25
32	Lynn	2	3	3	3	1.63	2.75
33	大地葉	1	6	1	2	1.63	2.50

1.4 傾向分析

今期調査は大混戦の様相を呈している。新人、ベテラン入り乱れの大混戦状態である。不動の日笠陽子が4位へ後退して上田麗奈が1位へ躍進。前回4位の種崎淳美が大暴落。それだけではなく、まさかの釘宮理恵が8位へ急浮上した。24位に中原麻衣が入って来て驚きを隠せない。また、これまで足踏み状態だった新人群の鈴代紗弓が3位へと一気にランクイン。新人群では小市真琴が一步リードしている感があり近々ランクイン目前かと思っていたが鈴代が来るとは予想できなかった。それ以外の新人については殆んど動きが無い。それどころかベテランまで参戦してきて壁が一層厚くなっている。ベテラン、中堅勢が20位まで占めており依然として分厚い壁が存在し他の新人は足踏みである。

1.5 際立つ状況

1.5.1 東山奈央, 上田麗奈

前回まで2位だった上田麗奈が1位へ躍進。
東山奈央が一気に2位へ。7月期は少ないものの4月期が多くこれが貢献したもよう。

1.5.2 日笠陽子

3回連続で1位だった日笠陽子が4位に後退。それでも4位につけていることが凄いところだ。

1.5.3 鈴代紗弓

ランク外からの2位と超大躍進。新人の中ではここ一番乗っている感がある。
上位者が踏みとどまっている現状は新人が入って来るのは難しいと考えるが、そういう意味で鈴代紗弓が躍進した原因分析は今後に約立つと考える。

1.5.4 釘宮理恵

突如の8位でランクインした。最早ベテランの領域であるが、ここ最近やたらと出演数が多い。

1.6 気になる状況

1.6.1 種崎淳美

前回調査より 21 位へと大幅に後退した。主演が多かったため、それに引きずられて総出演数が減ったか。

1.6.2 堀江由衣

前回調査では 84 位であったのが 20 位。以前のように主演は少ないものの脇役での出演が多くなり上昇したと思われる。

1.6.3 雨宮天

22 位であるが前回 44 位から躍進。一時の勢いは無いがミュージックレインの中では一番活躍している。

1.6.4 期待の新人

期待の新人としては 30 位以降に楠木ともり、市ノ瀬加那、羊宮妃那が控えておりいずれも声優アワード受賞者である。ただ、上位層がかなり厚いので、このままでは埋もれてしまいそう。常に出演していれば上位群に入ると思われる。

1.6.5 その他

大地葉は主演は決して多くはないが小さな役で常に出演して安定している。息の長い声優の見本となるかもしれない。

ラブライブ*のキャストについては軒並順位が低い。唯一、鈴木愛奈が健闘している形である。やはりラブライブ*は寄せ集め感が否めない。(声優という枠組みでは考えてはいけない)

2 『声優アワード』 Watch 10

-今年の結果は？-

TCVV 情報管理部 調査課 声優アワード担当

2.1 まえがき

気が付いたら発表されている声優アワード。

声優サークルだけど興味感心が薄く、今年の受賞者について知らなかったので復習の意味もかねて今年の受賞者を見てみることにする。

2.2 受賞者一覧

2.3 受賞者

主演声優賞	市ノ瀬加那、浦和希
助演声優賞	阿座上洋平、石見舞菜香、能登麻美子
新人声優賞	伊駒ゆりえ、榊原優希、戸谷菊之介、原菜乃華、羊宮妃那
歌唱賞	結束バンド
パーソナリティ賞	なし

2.4 所感

各賞に男女の区別がなくなった現在、女性声優の受賞割合が増えた。無理やり穴を埋めることがないので公平性が出てきた感じがある。

主演声優賞に関して市ノ瀬加那は妥当な線と感じた。機動戦士ガンダム-水星の魔女-で一気に知名度が上り、さらに昨年秋からの葬送のフリーレンで固めたのだろう。

新人賞はいつもの感じと随分と違う印象がある。伊駒ゆりえは経験が浅いながらも受賞したが、「推しの子効果」であることは間違いないだろう。印象に残ったという意味では声優アワードの規定通りではある。ただ原菜乃華については映画「すずめの戸締り」であるが、そんなに印象に残ったかといえば疑問が残り無理くり感が否めずしっくり来ない。

新人賞受賞者は今後大きく羽ばたくかといえば残念ながら失速してしまうことが多い。これは無理くり選出している所為かと思っている。

歌唱賞の結束バンドは納得できるものの、そもそも歌唱賞自体が必要なのかと毎回思う。

なお今年は「ガールバンドクライ」が注目されているので来年の声優アワードの歌唱賞はその辺りが受賞しそうな予感がする。

3 ナナニジ Watch 3

調査部

はじめに

謎の「デジタル声優アイドル」であるナナブンノニジュウニ（以下、ナナニジ）。
〇〇48 や〇〇坂などの単純なアイドルであれば放っておくところだが声優と名乗っている以上その動向を掴んでおきたい。

今年の動き

前回からのアップデート。
昨年6月に河瀬詩がストーカ被害に遭い活動中止していたが本年4月に漸く復帰した。
そのままフェードアウト卒業かと思っていたので少し意外だった。
これで久々にメンバー全員揃った。そんな矢先の6月中旬に初期メンバーである涼花萌が8月開催のライブを以って卒業と発表された。これで当初11人いた初期メンバーは3人(天城サリー、西條和、河瀬詩)を残すのみとなる。

デジタル声優アイドルはどこ行った？

これまでナナニジはデジタル声優アイドルとして色々やってきた。が、そのコンテンツはほぼ全て失敗していると言わざるを得ない。
VTuberをやっても閑古鳥で開店休業状態(アカウントは現在も存在)。本命であったアニメは演技の下手さ全開な上、シナリオボロボロで大失敗。リズムゲームアプリ「22/7 音楽の時間」も約1年半でサービス終了。やっていることと言えば定期的にライブをしていることぐらい。
よほど仕事が無いせいか本年7月からの新番組アニメである ATRI のED をナナニジが担当している。デジタル声優アイドルと銘打って担当キャラまでいるのに全く関係の無いアニメのEDを担当している。全く以ってブレまくりである。デジタル声優アイドルとは何なのか？
ソニー、アニプレックス枠でおこぼれを頂戴している感じがする。これではキングレコードとやっていることが変わらない。これは駄目パターンだ。

このままでは害悪になる

涼花が抜けると合計9人となる。アニメ二期は初期メンバ、新メンバーの相次ぐ卒業により恐らくは無いだろう。(こんな状態でシナリオ書ける人間がいたら大したものである)そもそも声優的な実力があるのは天城だけだ。

ナナニジは良くも悪くも他領域に侵食しない事であったと思っている。このままの惰性で行くようなら更に他領域を侵食する虞れがある。これは害悪としかならない。早期解散を願う。

4 声優システム論 18-ザクとは違うのだよ、ザクとは-

TCVV 議長

1. 声優システム論とは

現代声優はアニメや洋画に声を当てるだけの存在ではなく社会や経済にも影響を与える存在になり、その動きは一昔前の古典的な声優観では説明出来無い。

そこで現代声優の振舞いを複雑系として捉えることを考え、この系を『声優システム』と名付けた。^{*6}

本論は『声優システム』を様々な角度から考察するものである。

2. 声優養成所という闇

昨今の声優ブームにより声優というのが狭き門だと言うことは広く知られつつある。人気声優になるには30万分の1という低い確率であるという。この数字は数年前から変わっていないし何の根拠であるのか不明であるが狭き門であることは変わらない。

やや古い記事だが、東洋経済オンラインの大塚明夫氏のインタビュー記事^{*7}にて興味深い話があった。この手の話は有名だが話の流れで紹介しておく。声優志望者の多くが養成所に行くことが近道と勘違いしており、そのことが今や喰えない声優の量産工場になっていると指摘している。**ガンダムを作らずにザクを生産している**と比喻している。まさに量産形である。だが、世の中に求められているのは量産形ではない。「ザクとは違うのだよ、ザクとは」である。せめてグフぐらいの実力が無いと。養成所としては量産型を作っている途中で規格外の大物が万に一つで生産できれば見つけものと思っているようだ。

殆どは特徴の少ない喰えない声優であり、晴れて声優としてスタートできても1/300という仕事の無さ。上記とは別の東洋経済オンラインの貧困関係の記事^{*8}によれば小規模な事務所に所属する声優が仕事を得るためにはキャスティング権を持つディレクターや音響監督が講師を務める事務所や学校主催のレッスンに参加しなければならないとのこと。そしてその費用が毎月10万円程度はするらしい。まさに養成所の闇である。

3. 徒弟システム

前述したように声優養成所ではガンダムはおろかグフも作れないし、違法スレスレの闇商売もやっている、これでは駄目である。

そこで大塚氏は徒弟システムを提案している。確かに徒弟システムは面白いと思う。我々にとってのメリットはアイドル声優は激減されるのではと思う。

徒弟システムでは一人の師匠が見られる人数は制限があり大量生産はできない。それゆえ、じっくりと育つものと期待される。

^{*6} システムたる典型的な例は声優のためにアニメが作られるようになったこと。主従で言えば、従だった声優が主になったという点から見ても『システム』要件を満たしている。

^{*7} <https://toyokeizai.net/articles/-/323633>

^{*8} <https://toyokeizai.net/articles/-/769950>

ただ徒弟システムだと修行中は喰えない。弟子は師匠に付いて回ることが多く修行とアルバイトは両立が厳しい。生活面を考えると声優修行における徒弟システムは厳しい。

4. 最終兵器 BI

生活面とりわけ収入の面を打開する良い方法は無いか？そこで考えるのが最終兵器ベーシックインカム (以下、BI) である。衣食住足りて何とやらである。

最低限の収入が得られれば修行にも身が入る。さらに BI は別の効用がある。

声優は『金持ちの道楽』と揶揄される。晴れて声優になってもその後の仕事の無さである。親が資産家であれば問題は無いが資産家でない場合にはアルバイト三昧である。この点も BI であれば解消できるかと思う。このように声優 (役者) と BI は相性が良いと思う。

デメリットは収入面で問題が解消されるので競争激化となるであろう。また、先に述べたように養成所がキャスティングを餌に売れない声優の BI を搾取する貧困ビジネスに出る危険性がある。

5. まずはスモールスタートからどうか？

このように BI は理想ではあるが残念ながら現在の日本ではクソ政治家しかいないので実現は難しい。だが、徒弟システムは実現したい。まずはスモールスタートしてみてはと思う。

一番重要な生活面でのサポートはどうするのか。それは比較的資本力のある企業がバックアップすることだ。今、勢いのある企業であるソニーがやるってのはどうだろうか。製造業からコンテンツビジネスに上手く転換した企業である。タニマチ的に支援するのは理にかなっているだろう。

であれば、まずはお荷物のナナニジを早々に解散させてその余力資源を徒弟システムに向けることはどうか。そして指導力のあるベテラン声優を何人か雇いその下で弟子を育てる。入門するには当然のごとく師匠の厳しい審査があるのは言うまでもない。

6. 今回のまとめ

- 声優養成所は量産型ザクを作るだけ。
- 声優養成所は悪どい商売をしている。
- 徒弟システムでガンダムを作ろう。
- BI は声優を救う。BI サイコー！
- ソニーよ、まずは金を用意せよ。

5 「C103 時点で注目している女性声優」

北沢 鉱一

本来なら前回のコミックマーケット 103 で寄稿しようと思っていたが、急遽自分語りコラムに差し替えた為お蔵入りにしようと思ったがせっかく途中まで書いていた事もあり今回改めて寄稿する事にした。Aqours Final Live の件もあったので決してネタが無かった訳ではない。

さて、ここ数年のコロナ騒ぎ等々でコミックマーケットが開催されなかった間もアニメは放送され、新しい声優さんも出てきた。その中でも個人的に注目している 4 人をピックアップする。

尚、出演作品については主に各々の Wiki ペディア情報をその他は事務所や個々の X アカウント等を参照させていただいた。

5.1 永瀬アンナ [1]

「もういっぱい!」(2023 年)^{*9}で 3 年生の姫野紬役を演じている際にリアル高校 3 年生だという話を聞いてその前年に出演していた「サマータイムレンダ」(2022 年)の演技と合わせて年齢に反して落ち着いた声質だなという印象を持った。今年に入り「ぶっちぎり?!」という作品でいかにもヒロインという様な声の演技で声の幅を感じた。その他の出演作を調査してみると生徒役や主人公の幼少期役などが多く目立たない感じがあるのが残念だと思っていたら今期は「多数決」という作品にレギュラー出演していた。

5.2 若山詩音 [2]

子役時代から活動している為新人枠とするのはいかなものかという疑問もあるが、2021 年に無職転生や SSSS.DYNAZENON に出演していたらしが全くノーマーク。特に DYBAZENON はネットで話題になっていたものの衛星が頼み綱の田舎では ANIMAX で放送されたが録画に失敗、ようやく AT-X で放送されたのは今年になってからだった。2022 年放送の「ハコヅメ～交番女子の逆襲～」と「リコリス・リコイル」あたりから名前が気になり始めた。これらを観た後で実は映画「空の青さを知る人よ」の主演だった事に気がついたのはヒミツである。2023 年に出演した「好きな子がめがねを忘れた」で誰だ?コレ???と思った次第。

他の 3 人と比較するとモブ役を合わせて、全体的な出演作品数が少ない様な気もするが、先に上げた「好きな子がめがねを忘れた」での演技を聞くと期待せざるを得ない。

今期は「負けヒロインが多すぎる!」に出演。

5.3 会沢紗弥 [3]

アニメ作品ではなく音泉番組の「会沢紗弥と花井美春の「まったく、女子高生は最高だぜ!!」」がきっかけだった。この番組は映像付だったのだが、気だるさそうな雰囲気を醸しつつの放送で正直「仕事舐めとんのか!!!」と思ったが今思えばそれ自体も演技だったのかもしれない。まぁ番組そのものは面白かったので毎回聞いていたのだが...

^{*9} ちなみに姫ちゃん先輩推しである。

そんな事を思っていた頃に始まった 2021 年「大正オトメ御伽話」や 2022 年「Engage Kiss」でラジオで受けた印象がガラリと変わり現在に至る。最近では割と「さーやん出とるやん www」などと言っている事はヒミツである。

昨年末、体調不良による活動制限が発表されたが約 2 ヶ月程で復帰。まぁ体調不良の原因は容易に察する事が出来るが復帰ただけでもよかったと思っている。

今期は「時々ボソッとロシア語でデレる隣のアーリャさん」に出演しているらしいのだが本稿執筆時点^{*10}ではまだガッツリ出てきていないのでどの様な演技が見られるのか楽しみである。

5.4 羊宮妃那 [4]

知ったのは「SELECTION PROJECT」(2021 年)。正直この時のキャラは私の好みでは無いのでノーマークだった。

その後立て続けに「その着せ替え人形は恋をする」(2022 年)^{*11}に出演。セレプロではお姉さんだったが本作では妹。声自体の声質は変わらないがしっかりお姉さん系と妹系の演じ分けが出来ていた様に思えた。

アニメ作品には 2021 年から出ているらしいのだがその 2021 年だけで 11 本。翌 2022 年は 12 本、2023 年は 18 本、今年はこの夏クールまでに 6 本、「小市民シリーズ」や「真夜中パンチ」に出演、今一番注目している声優さんである。

5.5 まとめ

当初このコラム企画を考えた際、当初は 3 人をピックアップする予定だった。その内 2 人については羊宮妃那と会沢紗弥については即ピックアップ対象に上げる事ができたがもう 1 人の選考する中で永瀬アンナと若山詩音は最後の最後までどちらにするか委員会（委員長: ワイ、委員: ワイ）内にて非常に揉めた。その結果同率 3 位という訳では無いが 2 名とも取り上げるという自体となった。

以上、ここ数年のコロナ騒ぎの中でも通常運転でアニメを見続けた結果、しっかり声ヅタ TCVV の調査員としての使命を全うしていた報告である。

^{*10} 2024 年 7 月 20 日現在。AT-X にて視聴中

^{*11} 私自信がカメコ（今は休業 (?) 中）経験者という事もあり原作からのファンである

参考文献

- [1] Web: https://www.81produce.co.jp/actor_search/index.php/item?id=381
X: https://x.com/anna_nagase
Wiki: <https://ja.wikipedia.org/wiki/永瀬アンナ>
- [2] Web: <https://profile.himawari.net/view/1595>
Wiki: <https://ja.wikipedia.org/wiki/若山詩音>
※ X アカウントについては本人によるものか不明の為ここでは除外した
- [3] Web: <https://www.stardust.co.jp/talent/section3/aizawasaya/>
X: https://x.com/_saya_aizawa
Wiki: <https://ja.wikipedia.org/wiki/会沢紗弥>
- [4] Web: <https://www.aoni.co.jp/search/yomiya-hina.html>
X: https://x.com/Hina_Youmiya Wiki: <https://ja.wikipedia.org/wiki/羊宮妃那>

6 Chairman's free talk -議長放談-

TCVV 議長

1. 鈴代紗弓がいい感じ

新人の中で頭一つ出て来た感がある。
しかも、いわゆる鈴代ボイスだけではなく違う演技も見せつつある。
これで無駄なあーちすとデビューとならなければ、なおよろし。

2. ミュージックレイン三期って何やっているの？

これまでミュレは新人が出ればスグさま声優デビューさせて来た。
ミュレのやり方としては早々に声優デビューさせ、知名度を上げて約3年程度でユニット化させている。
第一期、第二期とも比較的早く声優デビューしたのに対して第三期に関してかなり時間をかけて育成している感がある。三期生についてみれば声優デビューしたものの絶望的なくらい作品に出ていない。以前のミュレであれば、それこそウザいくらいに出ていたのだ。戸松遥や雨宮天はデビューしてからゴリ押しされていたのと対照的である。
別段ユニット化を望んでいるわけではないし役者なら演技で勝負するのが基本なので力を蓄えているのであれば良いが、そんな気配が全くない。既に選考から7年も経過しているのに放置状態にも見えてしまう。戦略が全く見えない。

3. 喰えている声優は300人の妥当性

声優関係の話題になると必ず出てくる「喰えている声優は300人」という数字。その妥当性はいかに。
少し考えてみた。『喰える』の定義を『安定して仕事がある』としてTCVV短観のデータを用いると、女性部門において通年においてアニメに出演している者は凡そ105人。ところで声優といえど必ずしもアニメに出る訳ではない。アナウンス専門、吹き替え専門もいる。それが同じ数いるとすると合計210人。
男性部門はどうかと考える。プロ声優の男女比は6:4(女性:男性)と言われているので140人。ゆえに喰えている人数は合計350人となる。世に言う300人という数字はそんなに外れていないかと思う。
ただし、上記はかなり甘目で算出した数字であるため実数はもっと少ないのかと思っている。
現在声優事務所に登録している人数は1万余名という。圧倒的に大半が喰えないことになる。
また統計によれば声優の平均月収は16万円とのこと。総務省統計局の家計調査によれば単身者の支出が約17万円なのでなかなか厳しい数字である。

4. ドル売り少なくなった？

昨今、ドル売りが少なくなったと思う。為替相場も最近は円高だし...
ようやくドル売りの危険性や将来性の無さに気付いたのかと思ったけど、世の中、VTuber全盛なのでそちらの方が金になるので無駄なドル売りが無くなったというのが実際のところかと。

編集後記

本誌をご高覧頂きありがとうございます。

さて今年初頭『セクシー田中さん』の問題で原作者の自死という痛い事件がおきました。この事件により原作を改変しても良いのかという議論も盛んになりました。今夏、昨年に人気を博した「推しの子」第2期が始まりましたが、のっけからまさにこの問題を扱っています。第2期が半年早ければ、もしかしたら不幸は回避できたのかと思ってしまいました。

目を声優に向けてみれば原作に忠実というのはキャスティングや演技になるかと考えます。キャスティングにせよ演技にせよ原作の空気感を壊さないことに尽きると思います。棒読み演技は問題外ですが、たった一言のセリフの演じ方で作品が台無しになることがあります。作品を破壊されたとなると原作者およびファンは怒りを通り越して悲しくなります。今後は不幸な改変が怒らないことを強く望みます。

昨今、声優をテーマとしたアニメが制作されることが多いかと思います。今年も4月期に『声優ラジオのウラオモテ』という声優をクローズアップした作品が放映されました。その手の定番の演出としてアイドル声優の是非や演技に苦しむというのがあり本作品も御多分に漏れずありました。まあ、『声優ラジオのウラオモテ』に関して言えば**主演声優の事務所がアレな所**なのでアイドル声優を否定しても説得力は皆無なのですがね。

今期のTCVV短観を見て愕然としました。大混戦という言葉では尽しきれない状況です。芸歴20年以上となると落ちついて来て20位以内に入ることは稀なのですが最近では増えている傾向があります。まさに椅子取りゲームが過激を増しているという状況です。

いざ声優になっても仕事は無く余程の熱量が無いと継続できません。幸運にも人気声優になったらなったで過密スケジュールが待っています。

最近ではベテラン声優による手記が多く出版され声優養成所の悪どい手口が徐々に明らかになっており、その実態は酷いようです。声優養成所にとって生徒はドル箱です。不都合な事実是不知にしたいので養成所のテレビCMを見ていても希望に満ちた感動するものを流しています。正直、反吐が出る思いです。声優を目指している青少年はもっとこの事実を知るべきです。狭き門であることは漠然として知っているかと思いますがより具体的な数字や事象を知ることによって覚悟ができるかと思います。

TCVV設立後に生れた声優たちがようやく第一線で活躍してきた感があります。昨今は極端にヘタクソなのはなくなり、声の仕事に対してストイックな人々が増えたと感じます。設立当初にいた「勘違いあーちすと路線」とかに走ってしまう人はいなくなったと思います。

我々の思いは概ね達成したと考え、予告通り次回で定期発刊を終えたいと思います。

今回はこれまでやってきた成果などを総括したものを発刊したいと企画しています。

二十数年やってきた手前、それなりの物量があります。そのためまとめる時間が欲しいので冬コミはお休みします。次回は最短で来年の夏コミの予定です。

それまで少し時間が空きますが次回またよろしくおねがいします。

2024年8月10日 TCVV 議長 萱沼真一

TCVV 白書 第 25 号 通巻 29 号

発行 「声優は Visual に出るな!会議」 情報管理部

組版 L^AT_EX2e (Cloud L^AT_EX)

発行日

2024 年 8 月 11 日 (初版)

連絡先

「声優は Visual に出るな!会議」

代表者 萱沼真一

URI <https://www.tcvv.org/>

E-mail info@tcvv.org

Twitter <https://twitter.com/tcvv>

Copyright (C) 2024 The council of ‘Voice actors should not appear in Visual’

